

自己評価

学校運営計画 (4月)

評価  
(総合)

学校関係者評価

評価  
(総合)

自己評価は

- A 適切である
- B 概ね適切である
- C やや不適切である
- D 不適切である

学校運営方針	志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成をめざす。「さらなる飛躍をめざす糸高」のもと、生徒一人ひとりの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の三位一体の形成を基盤とした「生きる力」を育む。	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
<p>昨年度も、新型コロナウイルス感染症の影響による出席停止等の生徒を対象に、生徒の学習機会確保のために、オンラインによる授業コンテンツの配信などを全教職員で行った。授業コンテンツの多くは、「わかりやすい」「何度も繰り返し視聴できる」など、生徒に好評であった。今年度は、研究指定事業「創造的教育方法実践プログラム」を活用した国内外の関係機関との連携、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)を利用した生徒の個別最適な学びの環境の充実により学力向上及び全人的な成長をめざす。また、「ICEモデル」と観点別評価の推進による授業改善、生徒理解・支援の深化など、すべての教員の教科指導力を高めていく必要がある。</p> <p>「糸高志学」は、地域Itoshimaから学び、生徒一人ひとりに多様な見方・考え方を身につけさせるものである。これをとおして、その成果を学習支援や進路支援に生かしつつ、外部に向けた公開発表会を実施するなど包括的なキャリア教育に取り組んでいきたい。</p> <p>また、本校の教育実践や進路実績等の魅力を第6学区の全中学校生・保護者に浸透させ、理解を深めてもらえるよう、戦略的な広報活動を展開していく必要がある。</p>	<p>ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を実践し、「鍛えて、ほめて、伸ばす」指導をとおして、「知識・技能」の習得を図る。さらに、未知の課題に対応できる「思考力、判断力、表現力」を育成し、「学びに向かう力・人間性等」を涵養する。</p> <p>校訓「自主積極」の精神に則り、自尊心や思いやりの心を尊び、豊かな人間性を育む。また、「生徒」「教職員」「保護者」が協働して学校行事等を創造していくことで、糸高生としての自信と誇り及び感謝の気持ちを醸成する。</p> <p>「地域Itoshima」から学び、国際的な視野をもつグローバルリーダーとして、持続可能な社会づくりの担い手を育む。</p> <p>安全・安心の対策のもと、時間の効率化を図りながら創意工夫を凝らし、「生徒を主語にする」新しい時代の部活動や学校行事を実施し、さらに教育活動を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した「鍛える授業」の構築と「主体的・対話的で深い学び」の実践</li> <li>・タブレットを活用した「個別最適な学び」の充実とデジタル社会への適応能力の育成</li> <li>・「ICEモデル」による学習支援及び観点別評価の充実と授業改善</li> <li>・研究指定事業を活用した国内外の外部関係機関との積極的な連携</li> <li>・「看護・医療系クラス」の学校設定教科「健康」の構築</li> <li>・特別支援教育の視点に基づく生徒支援の充実及び人権感覚の醸成</li> <li>・生徒の社会的自立を促すキャリア・カウンセリングの取組の推進</li> <li>・学校の魅力化をHPやSNS等を活用して広く発信した戦略的広報活動の展開</li> <li>・「糸高志学」の更なる発展と課題発見力・問題解決力等の育成</li> <li>・習熟度別授業を展開した学力向上及び学習活動の改革</li> <li>・部活動やボランティア活動をとおして、豊かな人間関係の構築と人間性の向上</li> </ul>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教務部	教務課	「確かな学力」を身につけるための生徒がわかる授業改革を行う。	3段階習熟度別授業の円滑な実施と、適切な評価方法の実現を図る。	
		看護・医療クラスの円滑な運営と、新教育課程の編成を行う。	ICT機器の授業への効果的な活用方法を構築する。	
	庶務課	式典(入学式、卒業式、創立記念式)や学校行事の円滑な運営を行う。	科目「健康」の円滑な実施と、時間割の調整、評価方法の確立を行う。	
		机や椅子、テント等の備品の適切な管理と校内の学習環境の向上を図る。	「情報Ⅰ」の分割履修の是正と、新課程入試に向けたカリキュラムを編成する。	
生徒部	生徒支援課	主体的に行動することができる生徒を育成する。	「報・連・相」を徹底し、各式典、学校行事等、総務及び各関係分掌との連携を密に行い、諸行事の完成度を高める。	
		いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。	業務の標準化・情報化を行い、全職員が組織的・協働的に運営できる環境をつくる。	
		生徒と連携し、生徒間ネットパトロールを行い、トラブル防止・早期対応に努める。	事務室と連携し、机や椅子、テント等の備品購入に関する規格の統一を図る他、校内の用具補修を適切に行う。	
	保健安全課	各種検診や検査、各種相談を適切に行い、検診結果処理の効率化を図る。	机や椅子、テント等の備品管理手順について標準化及び情報化を進め、効率よく利用できるようにする。	
		安全で清潔な環境づくりを行う。	生徒の疾病や心の問題を把握し、職員が共通認識をもって、生徒の支援に当たれるよう、情報を共有する。また、生徒支援課やSC、SSWと連携して生徒の支援が行えるようにする。	
			美化委員による清掃指導や美化コンクール、考査前教室点検を通じて、清掃が行き届いた状態について、職員・生徒が共通認識をもって日々の清掃を行う。	
		性の相談、心の相談を効果的に行い、相談内容を適切に共有し、効果的な生徒支援につなげる。		
		安全点検や避難訓練を実施し、学校の防災・減災につなげる。また、防災に関する講演会を実施し、生徒、職員の防災意識の向上につなげる。		

項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見


キャリア教育推進部	キャリアサポート課	糸学課との連携を図る。	3年間を通したキャリア教育の計画・実施を糸学課と連携して行う。糸学での学びを有効に活用し、生徒が何を考え、何ができるようになったか、次にどうしたいかを言語化することで、次の探究に繋げていく。 教科学習や探求学習で学んだことを踏まえて、自分の興味・関心を社会へと広げ、深め、キャリアデザインを描けるように「考える力」「書く力」「伝える力」をつけさせる。						
		生徒の主体的な進路実現を図る。	1・2年生対象の大学入試準備講座や3学年対象の大学入試対策講座は希望制で実施し、生徒一人一人が主体的に自らの学習方法について考えるよう積極的に受講させる。 個別指導を学校全体の取り組みにし、形態や内容を検討・充実させる。 国公立大学40名、西南学院大学70名、福岡大学150名を目指す。						
	図書課	図書館が生徒にとって親しみやすく、快適に利用できるように努める。	生徒及び各教科に必要な図書を購入できるように努める。 図書館オリエンテーションにより新入生への図書館利用の啓発を行う。						
		糸島高校の取り組みを紹介する「糸高文林」のさらなる充実・発展をめざす。	糸島高校の文化を創造・表現する機能、年間の活動を記録する機能をそれぞれ継承・発展させ第72号を作成する。 所蔵の古いものからデータベース化していく。						
		広報活動の充実を図る。	中学校・学習塾への戦略的な訪問を実施。特進クラスの増設、看護・医療系の情報提供等を丁寧に行う。 保護者・学習塾への説明会の実施を増やす。（7月・10月に実施予定）						
	広報戦略課	広報誌の充実を図る。	本校の魅力が伝わる広報誌や学校紹介動画の作成を行う。 HPを活用し、学校行事や部活動報告等の新しい情報を随時発信する。						
糸高志学課		生徒と教師が共に学ぶことで、「糸高志学」（総合的な探究の時間）を「活かした学び」とする。 各学年主導での「糸高志学」（総合的な探究の時間）の円滑な運営を実現する。	教科横断的な学習体制を構築する。また糸島市役所・大学・外部団体等との連携を図る。 ICT、論理コミュニケーションを活用して、生徒と教師のまとめ方、伝え方などの探究の技法を充実させる。 職員研修等で情報共有を図り、学年の責任者を設定して、学年ごとに実務の分担を行う。 グランドデザインで学年のテーマを明確にし、学年におけるコンテンツを充実させる。						
糸高未来構想部	研修開発課	校内研修を充実させ、教員一人ひとりの資質向上及び学校改善につながる研修機会を充実させる。	本校の課題認識及び解決のための校内研修会を実施する。 研究授業・相互授業参観を計画的に実施する。						
		創造的教育方法実践プログラム（第2年次）の取りまとめを行い、本校の授業改善につなげる。	韓国ソジョン高校との国際オンライン研究、衛生データの利活用、看護・医療系クラスの大学病院実習、文部科学省MEXCBTを用いた学習コンテンツの利用、IGLの育成など第2年次の取り組みの円滑な運営を行う。 年3回の実践発表、運営指導委員会、糸高コンソーシアムを通して、本校の授業改善につなげる。						
	ICT・情報課	1人1台端末の管理や運用を強化し、ICT機器及び環境の整備と拡充を推進する。	約1000台のChromebookの管理及び運用を日常的に行い、定期検査や修理や不具合の対応・年度を跨いでの引継ぎなどを円滑に行う。 創造的教育方法実践プログラムに伴うICT機器の整備やネットワーク回線の強化を行う。						
学内・学外に向けた情報発信力の強化を行う。		学内向けの一斉（e）メッセージや遅刻欠席連絡システム・LINE公式アカウントの安定運用を目指す。 学外向けのホームページやSNSからの情報発信を通して広報活動を補助する。							

学年	第1学年	生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、社会性豊かな人材を育成するために、学校と生徒・保護者との信頼関係を充実させる。	保護者との連絡を密に取り、保護者と学校が一体となって生徒支援に取り組む。								
		主体的に学習に取り組み、生徒一人一人が自分の学習目標を達成することができるように、授業や家庭学習を工夫して行い、確かな学力を身に付けさせる。	SNSのルールや集団生活でのルールや挨拶、礼儀といった社会で活躍できる人材になるために必要な資質・能力・態度を理解させ、高めさせる。								
			生徒の理解度に応じた授業を実践し、生徒の授業満足度を向上させ、授業をとおして「わかる」、「できる」を経験することができるように取り組む。								
	第2学年	自尊心・共生心を育むことで、志をもって意欲的に学び・学び合う姿勢を育てる。	ICTを積極的に活用し、家庭学習を促すとともに、学習内容の個別最適化を図る。								
			糸高志学の時間を15時間以上確保した上で、生徒全員が責任をもって外部に探究の成果を発表する場を設ける。								
		進路意識の早期確立に努め、目標達成に向かって、戦略的・計画的な「思考力・判断力・表現力」を育てる。英検2級20名合格、英検準2級100名合格を目指す。	英語科と連携し、英単語小テスト等の取り組みを学年全体で行う。								
	第3学年	生徒・保護者・教職員の信頼関係を確立し、「自律心」と何事にも「挑戦」する心を持った社会性豊かな人材を育成する。	多様化する生徒（保護者）への早期対応に全力を注ぐ。そのためにも学年、養護教諭、特別支援コーディネーター、SC、SSWとも定期的に情報を、共有することで足並みを揃えていく。								
			将来、社会に貢献できるよう、学校行事や校外教育活動に積極的に取り組ませ、最高学年のリーダーとしての自覚を持たせると同時に、行事を通じての帰属意識や自己肯定感を涵養する。								
		より高い目標を掲げ、志をもって最後まであきらめずに意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせる。	個人面談を密にし、進路情報を提供したり適切な声かけをこまめにすることで、学校との信頼関係の中、最後まであきらめない高い志を維持できるようサポートしていく。								
			大学別個別指導や小論文・面接指導の更なる充実を目指し個性や学力に応じた進路実現を目指す。国立大学40名、西南学院大学70名、福岡大学150名を目指す。								

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見